

まっお新聞

発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)



甲子園出場で地元が盛り上がる 松尾から甲子園に！ 緑ヶ丘中学校出身の塩澤太規君がマウンドに立つ

7月24日に行われた全国高校野球長野大会の決勝戦で佐久長聖高校の投手を務め、甲子園行きを決めた背番号11の2年生塩澤太規さんは、緑ヶ丘中学校の卒業生で自宅は松尾の城区にある。

松商学園高校を8回までヒット1本に抑え、9回に2点失うも6対2で完投勝利した。

迎えた全国高校野球選手権大会。甲子園では開幕初日の第1試合。

8月7日、佐久長聖応援団はバス27台1800人が前日夜中に県内を出発。それに加えて有志が集った人、近畿地方から駆けつけた人で2000人の大応援団となった。参加した一人は何回か甲子園にきているが開会式から観戦するのは初めて」と喜んでいて。また「塩澤君のおかげで初めて甲子園に来ることが出来た」



再び甲子園へ！

甲子園に出場した松尾出身の塩澤太規さんが8月16日、母校の緑ヶ丘中学校を訪れ、校長室で甲子園出場

を報告した。今後、2学期に行われる北信越大会で優勝することを目指し、そのために勉強と練習と朝昼晩の食事をしっかり食べ、生活全体を高めることを誓った。

緑ヶ丘中学校村澤資憲校長と

という人も。試合は残念ながら徳島県代表の鳴門高校に2対3で敗れたものの、2回裏から登板した塩澤投手は鳴門打線を3回から0点に抑える好投をした。「最初から投げたら勝ってたかも」との声もあちこちから聞かれた。来年は3年生。春のセンバツ、夏の甲子園にもう一度戻って来ると決め、甲子園の土は持ち帰らなかったという。

松尾地区から 全国大会に出場

塩澤太規さんに続けと、松尾の小中学生が、長野県代表として全国大会に出場した。

- ・古川 要さん(中学柔道)
- ・今牧まりあさん(中学水泳)
- ・伊藤 鈴さん(小学柔道)
- ・前沢 拓さん(わんぱく相撲)

グループ紹介 44年目を迎える 松尾コーラス

松尾コーラスは結成から44年目を迎えます。現在は団員数20人、年齢層が30代から70代と幅広く、女性三部合唱として月2回練習を行っています。指揮は清水正則先生、ピアノの伴奏は片桐智子先生と、とても恵まれた環境です。



活動は「伊那谷芸術祭」「松尾地区文化祭」などの発表会に参加、歌うジャンルはクラシック、ポップス、松尾コーラス代表 林 公子
団員募集中
一緒に歌いませんか。ぜひ一度練習を聴きにきてください。
練習日 毎月第2・第4木曜日
時間 午後7時30分から
場所 松尾公民館

12時間リレーソフトボール大会 つないだ12時間の絆

7月31日、松尾公民館夜間ソフトボール連盟による「40周年記念12時間リレーソフトボール大会」が、早朝6時から夕方6時まで松尾小学校グラウンドで行われた。ゲームは20チームが東西に分かれ、1試合を70分として、リレー形式で行われた。普段はミスをするや次や叱咤が飛び交うが、この日は笑い声が飛び交い、暑さでバテ気味の仲間にエールを送りながら楽しい一日を過ごした。



「あれ〜」

松尾の人口
男子 6,211人
女子 6,923人
計 13,134人
世帯数 5,015世帯
8月末現在

からの語り継ぎの機会も少なく、資料館や記念館なども少ない▼平和の祭典といわれるオリンピックが東京で開催されるまであと4年となるが、世界ではテロや紛争が絶えない。一刻も早いテロや紛争の終焉を願うと共に、私たち戦争未体験世代に対し、二度と戦争を繰り返さないという意識づけを、継続的にできるように願う。

松風

7月7日マル
チタレントとして活躍していた永六輔さんが亡くなった。永さんは、事あるごとに自身の長野県への学童疎開などの戦争体験を話し、戦争の悲惨さを伝えていた。また、メディアに対し一過性の反戦平和報道でなく、継続的な報道を求めている▼私の父も戦争体験者だった。抑留され、現地で作詞した曲が戦後流行したが、その経緯やエピソード以外は私たちが家族にもほとんど話すことがなかった。永さんとの違いは、戦地に行つた者と学童疎開という体験の差かもしれない▼終戦から71年経ち、戦争体験者は高齢化し非常に少なくなつて、戦争の恐ろしさや悲惨さが子や孫世代へ伝わりにくくなつた。また、体験者からの語り継ぎの機会も少なく、資料館や記念館なども少ない▼平和の祭典といわれるオリンピックが東京で開催されるまであと4年となるが、世界ではテロや紛争が絶えない。一刻も早いテロや紛争の終焉を願うと共に、私たち戦争未体験世代に対し、二度と戦争を繰り返さないという意識づけを、継続的にできるように願う。

いいだ人形劇フェスタ 2016



「この風船で飛ぶんだ〜」

8月6日上溝集会所にて、130人を超える観客を迎え「げきだんはてな」人形劇では会場の子供が飛び入り参加し、会場内を逃げ回るという演出もあり、観客は大いに盛り上がった。楽器あそびや手品などは観客と会話をしながら行われ、会場全体で公演を作り上げる楽しい公演となった。

上溝公演

8月6日上溝集会所にて、130人を超える観客を迎え「げきだんはてな」人形劇では会場の子供が飛び入り参加し、会場内を逃げ回るという演出もあり、観客は大いに盛り上がった。楽器あそびや手品などは観客と会話をしながら行われ、会場全体で公演を作り上げる楽しい公演となった。



おーちゃんあかね

当日は、公民館文化委員がスタッフを務め、大勢の来場者を誘導し、混乱もなく終えることができた。

公民館公演

「らし」は、全国の子も劇場、幼稚園、保育園を中心に、年間180ステージを超える公演をし、飯田でも大変人気のある劇団である。この日も松尾地区内にとどまらず、市内各地や県外からも観劇に訪れ、340人の来場者があった。



「えい、えい、おー！」

新井公演

8月7日午前10時新井コミュニティ消防センターにおよそ80人の観客が集まった。第1部の飯田女子高校人形劇クラブによる『うさぎとかめ』では、油断して寝てしまおうさぎや、歩みが遅くとも着実に進むかめに向かつて、ちびっこたちからの熱い声援が飛び交った。第2部のパネルシアター劇団「パネルジャム」による『みんなの森』は、雲の

毛賀公演



「ぼおが来た〜！」

毛賀区民会館では、人形劇団「アルト」による『めっさきらもっさきらどおんどん』学校吹奏楽部の演奏があり、迫力満点の演奏に観客は大満足だった。

と緑ヶ丘中学校「みどり座」の『大切な仲間』が上演された。アルトは4人で影絵を見事に演じ、150人の来場者をくぎづけにした。みどり座は仲間とはどういうものかを教えてくれた。また当日は「ぼお」の登場で子供たちも大はしゃぎだった。最後にアトラクションとして緑ヶ丘中

清水公演

清水区の今年の人形劇は人形劇団「赤とんぼ」と緑ヶ丘中学校「みどり座」の公演。8月7日猛暑の中、親子連れや孫と一緒にのびのびと楽しんだ。約70人が清水コミュニティ消防センターへ観劇に訪れた。みどり座の若さ溢れる公演と、劇団赤とんぼの巧みな話術と高度な演出に、会場は外の暑さに負けないほどの熱気で盛り上がった。

公演終了後は、出演者と清水区スタッフによる交流会が催され、次世代を担う緑中劇団員と赤とんぼ劇団員が和やかに将来を語りあうなど、有意義な時間を過ごし、お互いの活躍と再会を誓い、人形劇と交流会を終えた。

夏の出張サイエンス



しっかり押さえて

「すごい」と歓声が上がった。31日は城集会所で72人が、8月7日は水城コミュニティセンターで26人が日光写真作りをした。水城地区では、参加した子供たちの手のひらを直接感光紙に当てて作品を作っていた。城子供会支部長の牧内怜士さんは、「自分も参加していて楽しかった。来年もやってほしい」と話した。



「みんなの手形を残すよ」

お手軽カメラで写真展 作品募集

松尾公民館文化委員会では、「お手軽カメラで写真展」を実施します。スマホ、携帯電話、デジタルカメラなどで撮影した写真を応募してください。テーマは「松尾のイチオシ」松尾地区内で撮影した写真であれば、風景、人物、動物などなんでもOK。応募期間は12月1日から12月28日まで。「タイトル」「撮影日」「撮影場所」名前

また7月31日代田公民館では、反射神経、重心について学べる子供参加のサイエンスショーが行われ「楽しみながら学ぶことができうれしかった」と子供たちから声があがった。

青少年健全育成会 講演会のお知らせ

あの震災の日、何が起きていたのか・心に響く体験談

『今こそ、学校・家庭・地域の絆を深めよう！』

日時 10月29日(土) 13:00~15:30

場所 松尾公民館ホール

講師 長田 徹さん(文部科学省勤務)

(お問い合わせ先 松尾自治振興センター 22-0091)

宮城県の指導主事在職中、3.11東日本大震災に遭遇し、ライフラインが全て絶たれる中、管内の学校の状況を確認するために奔走。避難所となった学校や、被災地の支援にあたった。

(ペンネーム可)「一言コメント」を明記し公民館にデータのままメールにて送信するか、2Lサイズでプリントアウトして、公民館まで持参もしくは郵送してください。作品は一人1枚とさせていただきます。応募写真は返却いたしません。多くの皆様の応募をお待ちしております。松尾公民館 〒395-10825 長野県飯田市松尾城4012-11 電話番号 0265-12210091 E-mail icc08@city.jida.nagano.jp

松尾地区市政懇談会 ～松尾地区の未来のために～

7月19日に松尾地区まちづくり委員会主催の松尾地区市政懇談会が開催され160人が参加した。牧野光朗市長より「市政経営の方向と課題」

と題しリニア関連道路の整備などについて講演があった。

まちづくり委員会(小木曾博人会長)は、産業が集積する竜水地区からの輸送ルートの確保が困難であることを訴え、市道1-53号線(産業道路)の活用について、①北側へ延伸して、松川を架橋で渡り、国道1



親子で参加したじゃがいも掘りは大切な思い出です

53号に接続する道路新設②県道伊那・生田・飯田線を拡幅改良して、国道153号に接続する道路改良の2つの案を提示した。参加者より「リニア関連の道路はすぐに整備されるが、それ以外はなかなか進まない。上伊那はリニア駅までの道路整備が進んでいる。国や県への働きかけをもっとしてほしい」と意見が上がった。

市長は「県の道路予算の20%以上は飯田下伊那に充てられるが、リニア関連の道路予算も含まれてしま

う。リニア関連の道路整備は別枠にするように県に働きかけていく」と答えた。

緑ヶ丘中学校3年の木下知夏さんと今村隼士さんから「飯田市の魅力」、「住まいとしての飯田」と題して、自分の思い描くリニア時代の松尾地区の将来の姿について意見発表があった。

やらまいか助成金の交付団体の取り組みとして、サ

スロード八幡による「高齢者にも利用しやすい商店街の取り組み」、寺所あすなろ農園実行委員会による「農業を通じて、地域の子供たちの交流で絆を深める取り組み」、代田地区寺子屋運営委員会による「ラジオ体操後の朝学や、工作教室や星見会の取り組み」の発表が行われた。

発表を受けて参加者の鋤柄優芽子さん(寺所区)から「小学校の時にあすなろ農園に参加させてもらった。農園が農家でも親と一緒に作業をしたことはなかったが、親子の共同作業を通じて地域の人たちともつながりを持てて大変貴重な体験になった」と発言があった。

初企画 松尾マレット祭り

真夏日が続く中、7月31日天竜川の松尾明河川敷マレットゴルフ場で松尾マレット祭りが開催された。

日頃からマレットゴルフに接する機会が少ない人たちを対象に、松尾MG同好会(平栗伸助会長)が中心に企画し行われた。

参加者120人が27組に分かれて各ホールからスタートした。

初めて参加した人、久しぶりにマレットゴルフをやる人などが会員のアドバイスを受けながら27ホールを回った。

27番ホールを終えると軽くひと休み。よく冷えたスイカで水分と栄養補給。「このスイカ美味しい!」と皆大喜び、麦茶やキウウリの漬物を頬張りながら「さーて次頑張るぞー」と気合を

八幡様で 賽銭泥棒か!?

6月初旬、八幡町の妙見北辰神社の賽銭箱に、ドルリのようなもので何か所も穴を開けられる事件が起こった。幸い金銭的被害はなかったが賽銭箱を修繕する事態となった。以前にも八幡宮本殿で、最近では鳩ヶ嶺八幡宮境内にある天神社や大黒社でも、賽銭箱を壊される被害があった。

賽銭箱には故意に開けられた穴がいくつも

ふれあいひろば

親子映画鑑賞会
7月2日に、デイズ二ーのアニメ「ベイマックス」を上映する親子映画鑑賞会が松尾公民館ホールで行われた。

今回縦が短く横が長いシネマスコープの上映だったので、来場者が470人と大勢だったが舞台前まで入ることができた。

*ラフティンク体験教室
7月16日にラフティンク体験教室が参加者18人で行われた。「アルプスぼうけん組楽部」のインストラクターに指導を受け、身近に



「このスイカ美味しい〜」

大規模災害に備えて

9月4日午前8時震度6強の地震発生の想定で、松尾地区自主防災会地震総合防災訓練が、松尾公民館ホールに松尾地区本部を設置して行われた。

今回は先の熊本地震に倣い、8時30分にも震度7の地震発生とし、本部内参加者はシェイクアウト訓練も行った。また、防災マニュアルに基づいた各班の活動訓練は、9時過ぎまで行い終了とした。

小林医師は、「災害が起こった時に、みなさんはまず市立病院に行こうとしますが、そこでは対応できないと思います。近くの開業医に行ってください。そこでトリアージが行われ、適切な処置がしてもらえます」と話した。

最後のAEDなどを使用した心肺蘇生訓練では、見学者が積極的に体験した。小木曾博人まちづくり委員会会長は「熊本や東日本のような大規模な災害は起ってほしくないが、このような訓練をすることによる災害への備えは非常に意義がある」と話した。

9月4日午前8時震度6強の地震発生の想定で、松尾地区自主防災会地震総合防災訓練が、松尾公民館ホールに松尾地区本部を設置して行われた。

今回は先の熊本地震に倣い、8時30分にも震度7の地震発生とし、本部内参加者はシェイクアウト訓練も行った。また、防災マニュアルに基づいた各班の活動訓練は、9時過ぎまで行い終了とした。

小林医師は、「災害が起こった時に、みなさんはまず市立病院に行こうとしますが、そこでは対応できないと思います。近くの開業医に行ってください。そこでトリアージが行われ、適切な処置がしてもらえます」と話した。

最後のAEDなどを使用した心肺蘇生訓練では、見学者が積極的に体験した。小木曾博人まちづくり委員会会長は「熊本や東日本のような大規模な災害は起ってほしくないが、このような訓練をすることによる災害への備えは非常に意義がある」と話した。



歯科医師による口腔チェックも

ある天竜川に親しみラフティンクを楽しんだ。

*味噌作り講座
7月30日、公民館「味噌作り講座」の受講者らが、味噌用大豆を育てている遊休農地の草取りを行った。

7月2日の豆まきから約1カ月経った畑は、成長した大豆と同じくらい雑草が茂っていたが、およそ1時間できれいに刈り取られた。



収穫が待ち遠しい

つなぐ

8月1日、第2回緑ヶ丘中学校区「小中一貫教育連携会議」が行われた。今回は、リニアが通る飯田市の

未来構想について、未来のまち作りに必要な生きる力を考える機会とするため、航空宇宙産業クラスター形成特区を推進している多摩川精機代表取締役副会長の萩本範文氏を講師に招き「飯田地域における航空機システム産業への挑戦」と題した講演

会が企画され、松尾・竜丘・下久堅小学校と緑ヶ丘中学校の教員約100人が参加した。

萩本氏は自分の体験談や航空機の

話をした後「子供たちには、地元にある産業があることを知ってほしい。飯田市は、将来ふるさとに戻ってこられる産業づくりをしていくことが大切」と語った。

緑ヶ丘中学校の村澤資憲校長は、「萩本さんの話を聴き、地域づくり、産業づくり、人づくりは一体ということを感じた。私たちも人を育てる仕事をしているので参考にしたいと思います」と話した。

講演会後は、小中合同顧問による野球、吹奏楽など21の希望分散会で部活動指導が行われた。

